

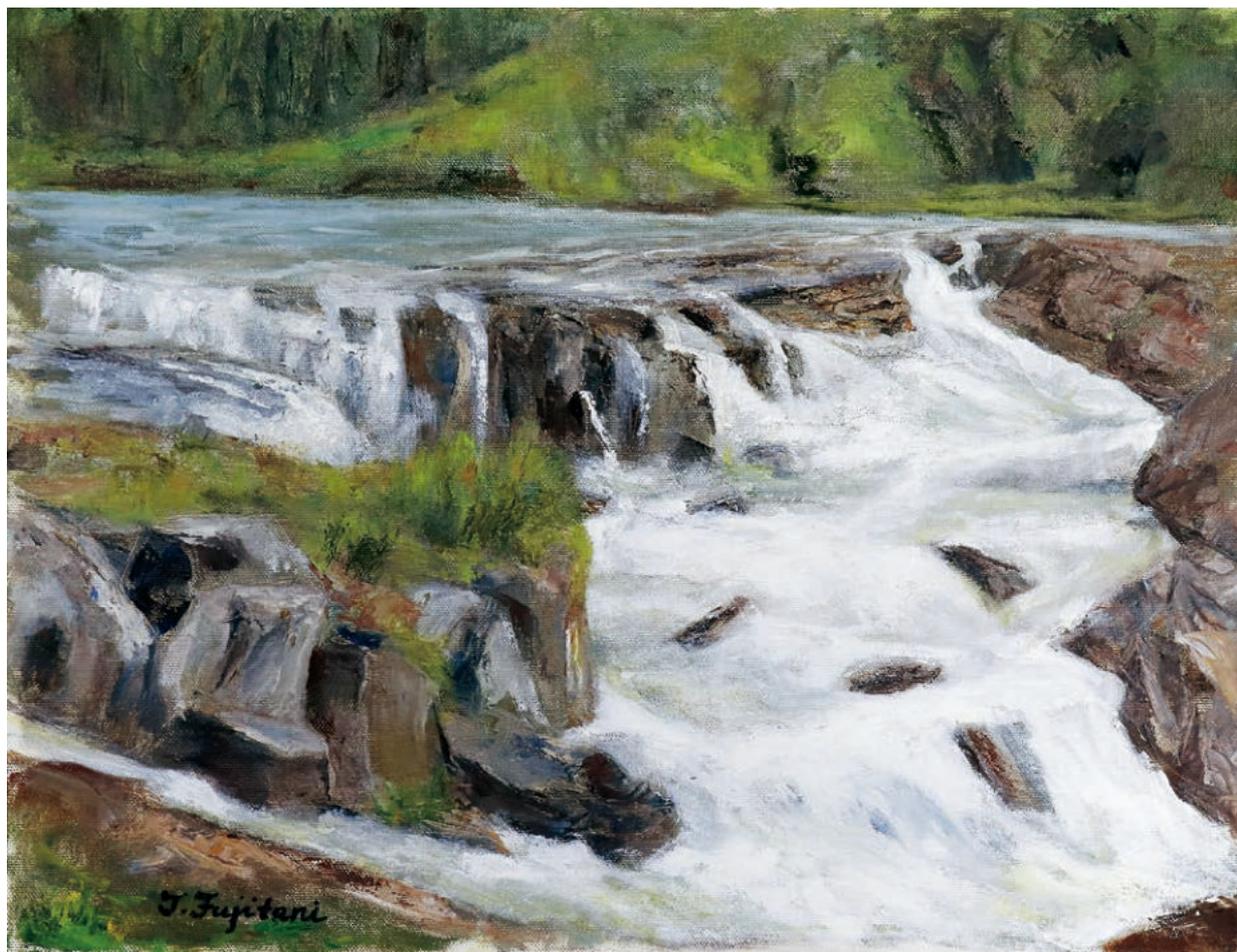
神緑会

Shinryokukai News Letter

一般社団法人 神緑会会報誌
神戸大学医学部医学科同窓会

第11巻 第3号

発行日 2019年12月20日



「曾木の滝」 藤谷 哲造（昭和37年卒）

Contents

令和元年度 一般社団法人神緑会 臨時（社員）総会並びに学術講演会プログラム	3	神戸大学ホームカミングデイプログラム	22
神戸大学医学部医学科創立75周年・神戸病院創立150周年 記念式典及び祝賀会	4	医学部医学科	22
記念式典 式辞 藤澤 正人	5	第7回神緑会ヤングインバ스티ゲーターアワード発表会	23
医学部医学科の歴史と現状 匂坂 敏朗	6	合唱	24
医学部附属病院の歴史と現状 西村 善博	8	第3回神緑会美術展報告	25
記念式典及び祝賀会プログラム	9	第71回西日本医科学生総合体育大会(西医体)成績表	28
記念事業のための歴史的事実の整理 前田 盛	16	優秀団体紹介	28
神緑会企画ゴルフコンペ	19	CiRA便り 砂留沙季子	30
第108回 日本学士院賞受賞に寄せて —— 出会いに導かれて 清野 進	20	研修医日記 プロローグ 木村 真希	32
		(改定) 令和2(2020)年度 一般社団法人神緑会助成事業募集について	33
		編集後記	34

木と生きる幸福

住友林業グループ

スマリンケアライフは、住友林業グループの一員としてより質の高いサービスをより多くの皆様にご提供し、「安心・安全・快適」な暮らしをサポートしています。

閑静でありながら便利な、神戸市垂水区に立地。



平成19年4月撮影



介護付有料老人ホーム

ドマーニ神戸

(一般型特定施設入居者生活介護/入居時自立・要支援・要介護)

☎ 0120(78)6665 (9:00~17:00)

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】●類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態/利用権方式●利用料の支払い方式/一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室)●入居時の要件/入居時自立・要支援・要介護●介護保険/兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設●介護居室区分/全室個室●介護にかかわる職員体制/1.5:1以上
【施設概要】●所在地/神戸市垂水区本多町3丁目1番37号●交通/JR[舞子]駅より徒歩15分[舞子高校前]下車、徒歩5分(約340m)市営地下鉄[学園都市]駅からバス8分[舞子高校前]下車、徒歩2分(約130m)●構造規模/鉄骨(一部)鉄筋コンクリート造 地上7階・地下1階の1棟、鉄筋コンクリート造 地上10階の1棟●居室数/一般居室195戸・介護居室58室●土地建物の権利形態/土地・建物とも自社所有

神戸の中心“三宮”に近く利便性豊かな神戸市灘区「HAT神戸」に立地。



平成23年5月撮影



介護付有料老人ホーム

エレガノ摩耶

(一般型特定施設入居者生活介護/入居時自立・要支援・要介護)

☎ 0120(01)4165 (9:00~17:00)

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】●類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態/利用権方式●利用料の支払い方式/一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室)●入居時の要件/入居時自立・要支援・要介護●介護保険/兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設●介護居室区分/全室個室●介護にかかわる職員体制/1.5:1以上
【施設概要】●所在地/神戸市灘区摩耶海岸通1丁目3番10号●交通/JR[灘]駅より徒歩13分(約1km)、阪神[岩屋]駅より徒歩10分(約800m)●構造・規模/鉄骨・鉄筋コンクリート造 地上14階建(ケアセンター東館5階)●居室数/一般居室134戸・介護居室96室●土地建物の権利形態/土地・建物とも自社所有

六甲の山並みを望む住みよい街。神戸市東灘区に立地。



平成18年4月撮影



介護付有料老人ホーム

エレガノ甲南

(一般型特定施設入居者生活介護/入居時自立・要支援・要介護)

☎ 0120(65)8208 (9:00~17:00)

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】●類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態/利用権方式●利用料の支払い方式/一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室)●入居時の要件/入居時自立・要支援・要介護●介護保険/兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設●介護居室区分/全室個室●介護にかかわる職員体制/1.5:1以上
【施設概要】●所在地/神戸市東灘区本山町3丁目3番1号●交通/阪急神戸線[岡本]駅より徒歩15分(約1,180m)・JR神戸線[摂津本山]駅より徒歩12分(約930m)、阪神本線[青木]駅より徒歩9分(約700m)●構造・規模/鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上14階建(ケアセンター地上6階)●居室数/一般居室105戸・介護居室101室●土地建物の権利形態/土地は普通借地(平成16年契約、所有者は神鋼不動産(株))、建物は自社所有

関西住みたい街No.1^{*1}の西宮北口が生活圏。2020年5月オープン予定。

西宮北口駅から徒歩約7分
シニアレジデンスギャラリー
見学受付中
(完全予約制)

入居申込
受付中



外観(完成予想図)



シニアレジデンス

エレガノ西宮

(入居時自立・要支援・要介護)

☎ 0800(100)2438 (10:00~17:00) 土曜定休

【西宮市サービス付き高齢者向け住宅運営指導指針による表示】●類型/サービス付き高齢者向け住宅●居住の権利形態/利用権方式●利用料の支払い方式/一部前払い・一部月払い方式●入居時の要件/入居時自立・要支援・要介護●介護保険/在宅サービス利用可
【施設概要】●所在地/西宮市津門大塚町11番58号●交通/阪急今津線[阪神国道]駅より徒歩4分(約320m)、JR神戸線[西宮]駅から徒歩11分(約880m)、阪急神戸線[西宮北口]駅より徒歩16分(約1,280m)●構造概要/鉄筋コンクリート造地上14階建2棟、5階建1棟●居室数/一般居室219戸・ケア居室90戸●土地建物の権利形態/土地は普通借地(平成29年契約、所有者はアーク不動産(株))、建物は自社所有
※こちらの完成予想図は現計画段階のもので、予告なく変更する場合がございますのでご了承ください。
※1.不動産・住宅サイトSUUMO(スーモ) 関西住みたい街ランキング2019より

■お問い合わせ・資料請求等は、各フリーコールをご利用ください。

〔経営・運営主体〕(公社)全国有料老人ホーム協会会員・(一社)全国介護付きホーム協会会員

住友林業(株)
66.7%出資

スマリンケアライフ株式会社

〒651-0073 神戸市中央区臨海浜通1丁目5番1号(国際健康開発センター3階)
TEL.(078)261-6665 FAX.(078)261-6662

【ホームページ】

<http://www.s-carelife.co.jp>



令和元年度 一般社団法人神緑会 臨時(社員)総会並びに学術講演会プログラム

日付 令和2年2月1日(土)

場所 神戸大学医学部附属病院 外来診療棟6F 大講義室

■ 開会の挨拶 (15:00)

■ 物故会員への黙祷

■ 令和元年度一般社団法人神緑会臨時(社員)総会 (15:10-15:40)

○議長による開会宣言

○議事録記名人の選出

1. 委員会報告等

2. 審議事項

1) 令和2年度 事業計画について

2) 令和2年度 予算について

3) その他

■ 新任教授・栄誉者紹介 (15:40~16:15)

≪休憩≫

■ 新春学術講演会

1. 講演 『臨床システム神経科学による脳病態の解明』 (16:25~16:55)

神戸大学大学院医学研究科 内科学講座 脳神経内科学分野 教授

松本 理器 (特別会員)

2. 講演 『医師の働き方改革 ～ダイバーシティを受け入れる～』 (16:55-17:25)

製鉄記念広畑病院 内科・消化器内科 部長

大内 佐智子 (平成元年卒)

3. 講演 『医者からみた「ミツバチ」の話』 (17:25-17:55)

垂水区医師会副会長 医療法人社団藤井内科クリニック院長

藤井 芳夫 (昭和54年卒)

■ 閉会の挨拶 (17:55)

■ 情報交換会 (於: 神緑会館多目的ホール) (18:10~20:00)

記念式典 及び 祝賀会

神戸大学医学部医学科創立75周年・神戸病院創立150周年記念式典を開催



神戸大学医学部では、神戸大学医学部医学科創立75周年・神戸病院創立150周年記念式典・記念講演及び祝賀会を、去る9月1日（日）に神戸市内のホテルで開催しました。

記念式典には、武田廣学長、藤澤正人医学部長、平田健一医学部附属病院長、木戸良明一般社団法人神緑会（同窓会）会長をはじめ、国会議員、兵庫県議会議員、神戸市議会議員、市町村長、関係病院長、神緑会員、名誉教授、学生など、約1,000名の参加がありました。

はじめに藤澤医学部長が式辞で、医学部医学科及び医学部附属病院の支援への感謝とともに、これまで取り組んできた「科学者」としての視点を持つ医師及び先端的・学際的研究を推進できる研究者の養成について、また、今後も社会貢献できる優秀な医師、研究者の育成に向けて尽力していくことを述べました。

続いて武田学長からは、医学部及び附属病院が発展し、多方面からの信頼を築いてこられたことに対する感謝と、これからの神戸大学の発展のために教職員のますま

すの努力と、来賓の皆様への一層の力添えをお願いする挨拶がありました。

また、柴山昌彦文部科学大臣、根本匠厚生労働大臣、井戸敏三兵庫県知事（以上、3名は代読）、寺崎秀俊神戸市副市長、空地顕一兵庫県医師会長、家次恒神戸商工会議所会頭からは、それぞれ祝辞が述べられました。

記念講演では、医学部の卒業生で、2012年のノーベル医学生理学賞受賞者の山中伸弥京都大学iPS細胞研究所長・教授を招き、「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」と題し、これまでの研究者としてのエピソードやiPS細胞を使った再生医療研究の取組について、時折ユーモアを交えて講演され、会場の参加者は笑いに包まれながらも、熱心に耳を傾けていました。

記念講演の後は、参加者全員で記念撮影を行い、その後の祝賀会では、神緑会混声合唱団と神戸大学医学部クラシック愛好会による合唱や演奏が披露され、終始和やかな雰囲気の中、最後に木戸神緑会会長の挨拶で締めくくられ、盛大に会は執り行われました。



記念式典 式辞

神戸大学大学院医学研究科長・医学部長 **藤澤 正人** (昭和59年卒)

本日は、お忙しい中、文部科学省、厚生労働省、兵庫県、神戸市をはじめ日頃より神戸大学医学研究科・医学部、ならびに附属病院の教育研究診療、病院運営にご支援を頂いております多数の皆様方にご臨席賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、神戸大学医学部医学科は、昭和19年に母体である兵庫県立医学専門学校が設立されてから本年で75周年、また、医学部附属病院は明治2年に兵庫県立医学専門学校の創立母体となった神戸病院が設立されてから150周年を迎えます。本日、このようにして記念式典を執り行うことができますのも、ひとえにご臨席の関係の皆様方のこれまでのご支援とご尽力のおかげであり、心より感謝申し上げます。

医学部医学科では、医学・生命科学分野の幅広い高度な専門的知識・技術を身に着け、高い倫理観並びに旺盛な探究心と想像力を有する「科学者」としての視点を持つ医師及び先端的・学際的研究を推進できる研究者を養成しています。最近では、学部入学段階から卒業・大学院までの一貫した教育の取組としてMDPhDコースや基礎医学研究医特別コースを設け、基礎医学研究者の育成を積極的に行っております。また、兵庫県との連携により医師不足地域の地域医療充実のための医師確保に向けた地域特別枠を設け、熱意をもって地域医療を担う医師の育成にも取り組んできております。

一方、医学研究科では、医学・生命科学領域における先端的な基礎医学研究や高度医療を目指した創薬や医療機器開発につながる臨床研究を推進し、国内外の研究機関や産官との連携のもと社会実装につながるイノベーション創出を目指しています。また、大学院教育におきましては、卓越した研究指導を行うとともに「医学・生命科学を担う国際的に優れた医学研究者」並びに「リサーチマインド及び高度な臨床技能を兼ね備えた臨床医（高度専門職業人）」を養成しています。

さらに、医学研究科・医学部では、インドネシアなど国際共同研究の拠点を基盤にしてASEAN諸国と連携し国際貢献事業に尽力する一方で、アジアのみならず欧米との学生・医師の国際交流事業を推進し国内外で活躍できるグローバルかつ優秀な人材の育成にも努

力してきております。

また、地域との連携において医学研究科・医学部と附属病院は、兵庫県、神戸市をはじめ地域の医療機関、研究機関ならびに企業と密接に連携して兵庫県における基礎並びに臨床研究の中核的役割を担い、先進的医療の開発・研究を推進するとともに兵庫県下の地域医療の向上に努めて参ります。

本日記念講演をしていただきます、ノーベル医学生理学賞・学士院賞を受賞されました、京都大学IPS細胞研究所 所長 山中伸弥教授も本医学部の卒業生ですが、これまで多くの優秀な卒業生が全国の大学や医療研究機関で臨床医、あるいは研究者として活躍され、また、一方では、兵庫県をはじめ全国の病院あるいは医院などの医療の第一線で臨床医として、さらには医療行政において貢献されてきており、神戸大学医学部として大変誇りに思っています。今後も一人でも多くのこのように社会に貢献できる優秀な医師、研究者の育成に尽力してまいります。

最後になりましたが、本日のこの式典を機に、皆様方に引き続きさらなるご支援・ご協力を賜り、神戸大学大学院医学研究科の基礎分野、臨床分野、附属病院が一丸となって研究力、教育力、診療力、組織力を高め、地域そして国際的に貢献できる卓越した医学研究科・医学部・附属病院として飛躍できるよう努力して参る所存でございます。

本日は、誠にありがとうございました。

以上で私の式辞の挨拶とさせていただきます。



医学部医学科の歴史と現状

神戸大学医学部医学科長 **匂坂 敏朗** (平成7年卒 特別会員)

神戸大学は、1902年の神戸高等商業学校を創立の起点とした10学部15研究科を有する総合大学であります。その中でも医学部の歴史は古く、神戸大学医学部の母体となった神戸病院は、兵庫県置県とほぼ同時期の1869年に開院されました。神戸病院には医師養成を担う医学伝習所が併設され、それが1876年に神戸病院附属医学所、1882年に兵庫県立神戸医学校へと発展していきました。1888年に政府の官費以外での医師養成を禁ずるとの方針により、兵庫県立神戸医学校は閉校の憂き目にあいました。1944年に兵庫県によって、兵庫県立医学専門学校として復活し、1946年に兵庫県立医科大学、1952年に兵庫県立神戸医科大学、1964年に国立移管され、現在の神戸大学医学部になりました。本年2019年に、神戸病院創立から150年、医学部創立（兵庫県立医学専門学校創立）から75年を迎えました。

この医学教育の歴史の中で、1961年から学生全員に科学的素養、リサーチマインドを身につけることを目的として、学生全員が基礎医学の研究室で研究活動を行う実習、基礎配属実習を行って参りました。その中で特筆すべきこととして、1969年に西塚泰美先生が神戸大学に着任されました。西塚研究室で、本学の卒業生である高井義美先生が学生時代から研究を開始し、西塚先生のご指導のもと、細胞内シグナル伝達研究において極めて重要であるリン酸化酵素プロテインキナーゼCを発見、またその活性化メカニズムを発見し、それが化学発がん物質ホルボールエステルによるがん化の本体であることを明らかにしました。その功績により西塚先生は、文化勲章、ラスカー賞を受賞し、ノーベル賞の候補として挙げられておりました。学生の間で、研究で世界を驚かせる、世界と戦える、毎日がオリンピックということが根付きまして、この基礎配属実習を継承、継続して参りました。それがついに結実して、本学の卒業生である山中

伸弥先生がIPS細胞を創出し、ノーベル賞を受賞されました。

こうしたことを背景に、医学科は使命「世界に開かれた国際都市神戸に立地する大学として、豊かな人間性、高い倫理観ならびに高度な専門知識・技能を身につけ、旺盛な探求心と創造力を有する科学者としての視点を持ち、地域への貢献を含めたグローバルな視野で活躍できる医師及び医学研究者の養成を積極的に推進する。」を定めまして、科学者の視点というのを先人から継承し、大事にしております。医学や医療は人々の健康や生活に密接に関わるものですから、それぞれの場面において必ず解決しなければならない未知の問題が起こってきます。未知の問題に向き合った時、既存の知識や技術では解決出来ません。その時に、科学的な考え方をもって解決の方法を導き出せる、切り開くことができるリーダーとなる医師、医学研究者を育成するという意味を込めております。

医学科の現状ですが、基礎配属実習は進化し、学部教育・大学院教育・卒後臨床研修をシームレスに融合・接続した医学研究教育（基礎医学研究医養成プログラム）を実施しております。年間30名を超える学生が研究をしており、第二、第三の山中先生、高井先生が近い将来に出てくるものと確信しております。国際化

神戸大学の沿革

1869年(明治2年) 神戸病院

1902年(明治35年) 神戸高等商業学校

1944年(昭和19年) 兵庫県立医学専門学校

1946年(昭和21年) 兵庫県立医科大学

1952年(昭和27年) 兵庫県立神戸医科大学(改称)

1964年(昭和39年) 神戸大学医学部(国立移管)

2019年(平成31年) 神戸病院創立150周年、医学部創立75周年

神戸大学医学部の沿革

- 1869年(明治2年) 神戸病院
- 1882年(明治15年) 兵庫県立神戸医学校
- 1888年(明治21年) 閉校
- 1944年(昭和19年) 兵庫県立医学専門学校
- 1946年(昭和21年) 兵庫県立医科大学
- 1952年(昭和27年) 兵庫県立神戸医科大学(改称)
- 1958年(昭和33年) 大学院医学研究科(博士課程認可)
- 1964年(昭和39年) 神戸大学医学部(国立移管)
- 1979年(昭和54年) 付属医学研究国際交流センター設置
- 1994年(平成6年) 医学部保健学科設置
- 2001年(平成13年) 大学院医学系研究科(部局化)、新棟竣工
- 2003年(平成15年) バイオメディカルサイエンス専攻(修士課程)設置
- 2004年(平成16年) 国立大学法人に移行(独立行政法人)
- 2019年(平成31年) 神戸病院創立150周年、医学部創立75周年

を目的として、終戦直後の1946年から金子敏輔先生が医学英語を開始され、さらに本学の卒業生である高階経和先生が発展され、現在へと継承しております。その教育が結実して、現在では年間50名を超える学生が海外の様々な大学で臨床実習をしております。創立時から兵庫県と密接な関係があるのですが、現在では兵庫県からのご支援による地域特別枠の学生、さらには地域医療学部門を設置していただき、充実した地域医療教育をしております。医師プロフェッショナルリズム教育の一つとして、4年次の学生に臨床実習前に

医師になる心構えを宣誓する白衣式を行っております。医師、医学研究者にとって必要不可欠である豊かな人間性や社会性、高い見識や倫理観を身につけるよう教育しております。

新しい令和の時代、将来、医学科はさらに多くのそれぞれの分野で世界をリードする医師、医学研究者を育成していく所存です。そのためには皆様方のお力が是非とも必要です。今後とも変わらぬ一層のご支援、ご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

神戸大学医学部医学科医学教育の系譜



基礎医学 ～ 脈々と継承される生命科学研究

Yasutomi Nishizuka's Discovery of Protein Kinase C

Studies on a Cyclic Nucleotide-independent Protein Kinase and Its Proenzymes in Mammalian Tissues. I. Purification and Characterization of an Active Enzyme from Bovine Cerebellum
(Takai, Y., Kishimoto, A., Inoue, M., and Nishizuka, Y. (1977) *J. Biol. Chem.* 252, 7603-7609)

Direct Activation of Calcium-activated, Phospholipid-dependent Protein Kinase by Tumor-promoting Phorbol Esters
(Castagna, M., Takai, Y., Kaibuchi, K., Sano, K., Kikkawa, U., and Nishizuka, Y. (1982) *J. Biol. Chem.* 257, 7847-7851)



J Biol Chem. 2010 Oct 29; 285(44): e15-e16.

Yasutomi Nishizuka (1932-2004) was born in Ashiya-city, Japan. He attended Kyoto University and obtained his M.D. in 1957 and his Ph.D. in 1962, working with *Journal of Biological Chemistry* (JBC) Classic author Osamu Hayaishi (1). He then spent a year as a postdoctoral fellow at Rockefeller University with Fritz Lipmann (also featured in a JBC Classic (2)) before returning to Kyoto University to resume work with Hayaishi. During this time, Nishizuka studied the biosynthesis of nicotinamide adenine dinucleotide (NAD), the involvement of GTP in ribosomal protein translation, and ADP-ribosylation by diphtheria toxin.

In 1969, Nishizuka accepted the position of full professor and head of the department of biochemistry at the Kobe University School of Medicine. There, Nishizuka became interested in the role of protein kinases in the regulation of cell functions. This led to his discovery of a novel protein kinase, which he published in the first paper reprinted here as the JBC Classic. As Nishizuka reported in that paper, he and his colleagues partially purified the kinase from bovine cerebellum. They

西塚 泰美 教授

文化勲章 (1988)
The Albert Lasker Basic Medical Research Award (1989)
The Kyoto Prize (1992)

The Nobel Prize in Physiology or Medicine 2012 was awarded jointly to Sir John B. Gurdon and Shinya Yamanaka "for the discovery that mature cells can be reprogrammed to become pluripotent."



神戸大学医学部医学科
昭和61年卒業

山中 伸弥 教授

文化勲章 (2012)
The Albert Lasker Basic Medical Research Award (2009)
The Nobel Prize in Physiology or Medicine 2012

神戸大学医学部医学科の使命



世界に開かれた国際都市神戸に立地する大学として、豊かな人間性、高い倫理観ならびに高度な専門知識・技能を身につけ、旺盛な探求心と創造力を有する科学者としての視点を持ち、地域への貢献を含めたグローバルな視野で活躍できる医師及び医学研究者の養成を積極的に推進する。

特に、学部入学段階から卒後・大学院までの一貫した取組により基礎医学研究者の育成を行う。

医学部附属病院の歴史と現状

神戸大学医学部附属病院副病院長 **西村 善博** (昭和58年卒)

神戸大学医学部ホームページに掲載されているように、神戸大学医学部附属病院の前身である神戸病院は明治2年に開院、15年に県立神戸病院となり、33年には現状近くの中央区楠町6丁目に新築、移転となった。昭和5年に病院本館が竣工し、神戸大学医学部の設置に伴い、国立移管が行われ、42年に神戸大学医学部附属病院と改称となった。昭和58年に中央診療棟、61年に外来診療棟・臨床研究棟が竣工した。さらに平成時代になり、平成6年に第二病棟、13年に第一病棟が竣工した。29年国際がん医療・研究センター (ICCRC) が設置され、令和元年7月に救命救急センターが設置された。

附属病院では、平田健一病院長のご指導の下、6つの基本理念（患者中心の医療の実践、人間性豊かな医療人の育成、先進医療の開発と推進、地域医療連携の強化、災害救急医療の拠点活動、医療を通じての国際貢献）をもとに934床（一般病床888、精神病床46）が運営され、ICCRCでは味木徹夫センター長の下60床で運用されている。

手術件数は平成20年代前半には6,500件/年程度であったが、杉村和朗元病院長、藤澤正人前病院長のご尽力により、平成26年には手術室が13室から17室に増室となり、件数も約8,800件と増加した。しかし、そこで頭打ちとなっていたのだが、平成29年にICCRCが設置され、手術件数は10,000件を越えるようになった。診療報酬額も15年間で倍増となり、平成30年度実績（ICCRC込み）で354億円を越えている。

現在附属病院として最も力を入れている一つが、臨床研究中核病院の認定取得で、今年度秋の申請に向け

準備中である。また、国際化の推進を図るため平成29年度に医学部附属病院インターナショナル・メディカル・コミュニケーション・センター (IMCC) が設置され、平成30年度には神戸市からの委託でIPRD (International Patient Reception Desk) を設置し、外国人患者受け入れの推進を行っている。地域との連携では、ポートアイランド地区の医療エリア、研究開発エリアとの連携を図り、平成29年度に「統合型医療機器研究開発・創出拠点（通称MeDIP：Medical Device Innovation Platform）」を神戸医療産業都市内に神戸国際医療交流財団と開設し、国産医療用ロボット等革新的医療機器開発に取り組んでいる。

兵庫県とは、地域医療循環型人材育成プログラムや地域医療活性化・地域医療人材育成プログラムで連携し、リハビリテーション機能回復学分野（24年度から）など5分野の寄附講座の設置を頂いた。地域医療活性化センターでは、兵庫県と大学が一体となって、医師、看護師をはじめとしたメディカルスタッフの卒前から卒後に係る教育研修を一貫して実施することにより、県内における地域医療に必要な人材の養成を図っている。

神戸市からも小児科学分野こども急性疾患学部門（平成21年度から）など3つの寄附講座の設置を頂いている。令和元年には神戸市難病相談支援センターの委託を受け、活動中である。

このように、多くの先人、兵庫県や神戸市等自治体、関係病院や企業などとの連携・協力、現在のスタッフの努力を通じて質の高い医療の提供が可能となっている。附属病院の発展に尽力いただいた皆様に感謝したい。

神戸大学医学部医学科創立75周年・神戸病院創立150周年 記念式典及び祝賀会プログラム

1. 記念式典 午後2時～ 神戸ポートピアホテル（ポートピアホール）

開式の辞

式 辞

挨拶

来賓祝辞

神戸大学大学院医学研究科長・医学部長 藤澤 正人
神戸大学長 武田 廣
文部科学大臣 柴山 昌彦 様
厚生労働大臣 根本 匠 様
兵庫県知事 井戸 敏三 様
神戸市副市長 寺崎 秀俊 様
兵庫県医師会長 空地 顕一 様
神戸商工会議所会頭 家次 恒 様

医学部医学科の歴史と現状 神戸大学医学部医学科長

医学部附属病院の歴史と現状 神戸大学医学部附属病院副院長

閉式の辞

匂坂 敏朗

西村 善博

2. 記念講演 午後3時10分～ 神戸ポートピアホテル（ポートピアホール）

「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」

京都大学iPS細胞研究所 所長／教授 山中 伸弥 様

座長 一般社団法人 神緑会 顧問 前田 盛

3. 記念撮影 午後4時～ 神戸ポートピアホテル（大輪田の間）

4. 記念祝賀会 午後5時～ 神戸ポートピアホテル（大輪田の間）

開会の辞

来賓祝辞

神戸大学医学部附属病院長 平田 健一

兵庫県知事 井戸 敏三 様

神戸市長 久元 喜造 様

神戸市医師会長 置塩 隆 様

合 唱

「あけゆく大空六甲に」

（作詞：波多野輔久（元教授） 作曲：和田 勇（昭和38年卒業））

神緑会混声合唱団

乾 杯

名誉教授

望月 真人

合 唱

「Ave Maria」（作曲：和田 勇）

神緑会混声合唱団

合唱・管弦楽

「神戸大学医学部 学歌（候補曲）」

（作詞作曲：三條みどり（平成11年卒業） 編曲：パブロ・エスカンデ）

「『カヴァレリア・ルスティカーナ』より間奏曲」

（作詞：マツォーニ 作曲：マスカーニ 編曲：青山 伸郎（昭和55年卒業））

神緑会混声合唱団・神戸大学医学部クラシック音楽愛好会

閉会の辞

一般社団法人 神緑会 会長

木戸 良明



祝賀会









神戸病院創立150周年、神戸大学医学部医学科創立75周年 記念事業のための歴史的事実の整理

記念事業の実施に当たり、起点の整理など必要なことは多くあるが、150周年となると、解らないことだらけで取り組みが難しかった。特に、明治2年の神戸病院は、その実像らしきことが判明したのは、昭和59年で実際には、150年のうちの35年しか経過していない。9月1日のポートピアホテルでの記念式典と10月26日ホームカミングデイでの歴史展示を経たので、要点を整理し皆様の理解の助けとしたい。

1. 150、75周年記念事業の歴史的内容の整理

記念事業の推進に当たり、幾つかのきわどいタイミングでなんとか乗り越えて無事記念式典や祝賀会に至ったことは感慨に耐えられません。9月1日の記念式典の数日後に立役者の藤田英夫先生から受け取ったメールで「150周年記念といっても神戸病院の所在が解ってからはわずか35年です」と書かれていた。医学部50周年事業を真近に控えて、神戸新聞に溝井医学部長が「前身が判明した喜び」を投稿されていた（昭和62年4月10日）。

昭和38年卒の住野公昭先生が神緑会学術誌創刊号（昭和60年6月15日発行）に紹介されているが4枚の写真を溝口史郎名誉教授が京都大学から受け取り、40周年記念事業に取り組んでいた皆さんに大きなインパクトを与えた。ただ、この段階では特定者として、近盛春嘉説が広まった。70周年記念事業の準備として「まず、藤田英夫先生に講演をお願いしよう」となり、面識も無いまま、神戸史談会の原稿を下に何とか繋がることを期待して神戸史談事務局に電話した。「すでに退会されています」との返事であったが幸い



神戸大学文書史料室室長補佐 野呂理栄子、筆者と
掲示を手伝った5名の医学部医学科学生

神緑会顧問 前田 盛（昭和46年卒）



36年卒 岡田昌義先生他展示をみる参加者、
展示及びショーケース（カギのかかるもの）

にも過去の保存電話番号に行き着いた。教えられた電話のダイヤルを回して応答のあるまでの時間は本当に長く感じた。幸いにもご本人が健在で平成26年1月一般社団法人神緑会総会での講演が実現した。ただ、忘れてならないのは、この布石に一石を投じた寺島俊雄神戸大学名誉教授の執筆があった。平成25年8月15日に『明治期の神戸病院の跡地を尋ねて』（ニュースレター第5巻第4号23～27ページ）の意図をお聴きすると、「自分が給与を頂いている大学の歴史を知りたかった」と淡々とした説明を頂いた。

寺島先生のすさまじい行動力と点火力には感謝にたえない。

2. 明治2年神戸病院の実像

立派な西洋風の病院写真なので見ただけで驚いた。しかし、今回の検索でThe Hiogo Newsで実態が判明した。1階に30床、2階に50床の病床は80床で従来イメージの湧かなかった立体像が記載されていた（英文写真及び翻訳）。日本で何番目の西洋式病院かは、調べたことが無かったが、以前の記念事業の式典挨拶で兵庫県知事が「日本で3番目の西洋式病院と言われた」が一人歩きしていた。長崎大学医学部ホームページによれば、オランダ人軍医、ポンペによる1861年落成式、開院式が最初でした。二番目とされている横浜の軍陣病院の実態は、修文館と言う学校の建物を病院として1868年官軍と幕府の衝突、鳥羽・伏見の戦いでのけが人の搬入で本格的な外科手術が行われた。この病院は明治6年に東京に移設され、東京大学の前身となった。長崎病院の次に神戸で病院建設

の寄付（神戸病院講金録）を募っているとの情報が掲載されていた（明治事物起原下巻）。従って2番目の西洋式病院であった可能性を考える。神戸病院では、明治15年までの期間は診療体制が安定しない時期があった。今回の検索で図書医学分館に治験録（明治7年、ベリ―）と外科通論20冊が保管されていた。

The Hiogo News（読みやすいように入力した）

LABORE VINCES.

HIOGO, July 14th, 1869.

In our issues of May 7th of last year, we published a short communication from a medical gentleman, headed, "Wanted--A Hospital." We are glad to be able to state that the want has been supplied. Kobe now possesses a Hospital of fair size, furnished with many modern conveniences and luxuries, and having ample accommodation for 160 patients. That such an institution will prove of great benefit to both natives and foreigners there can be little doubt, and from the liberal principles with which it is started, we conceive it to be well worthy of support. Strange, that in this instances we have not to thank the foreign community for so great a boon. The buildings, ground, etc., have been provided by the voluntary subscriptions of Japanese merchants resident in Kobe and Hiogo, who, with a desire to make the institution as widely useful as possible, have handed over the entire management to the Japanese Government, first stipulating for the reception and treatment of all classes of patients. The VEDDER is the medical officer in charge, and under his care the "Kobe General Hospital" bids fair to be a very useful institution.

We visited the establishment a few days ago, and were well repaid for the trouble. On entering, we were courteously received by Dr. VEDDER and his assistant, Dr. MORI, who kindly showed us over the building. Starting from below, the Visitors Room, on the left of the main entrance, is the first object worthy of note, and opposite to this is a fine airy Dispensary. On this floor there is a Japanese class-room and three wards, with accommodation for 30 patients, with Bath-rooms and other conveniences for Hospital use. Proceeding upstairs, the splendid landing at once attracts the visitor's attention, and in cold weather this will make a fine place of exercise for the convalescent. Around this are the wards, which comprise single rooms, double rooms, and large wards, there being in all accommodation for 50 patients. This gives total of 80 patients for the Building, without any

crowding. The Verandah in front overlooks a fine garden, with artificial ponds and islands in the Japanese style; there is also a good view of the Bay and Shipping.

An important feature of the establishment is the Charity Ward, and here the liberal and charitable character of the institution is at once made evident. Poor Japanese are to be kept and treated free of expense to themselves, and room is provided for 80 patients. The whole establishment, including the kitchen and outhouses, is the perfection and cleanliness, and everything shows careful supervision.

We little thought when we inserted the article "Wanted--A Hospital", that we should be indebted to native enterprise and charity for valuable an institution.

One so liberal in its principles shows an amount of sympathy existing amongst the Japanese that foreigners seldom give them credit for.

The Hiogo News 和訳文（福原一美氏の援助による）

1869年（明治2年）7月14日

昨年の5月7日号で私達は医療関係者からの短い通信を発表しました。“病院を望んでいる”と。欲しいものが供給されたことと述べる事ができてうれしいです。

神戸は現在、かなりの規模の病院があり、近代的な便利さと豪華さが備わっており、160人の患者の為の十分な（宿泊）施設があります。

病院のできた事は現地の人や外国人、両方に大きな利益をもたらす事を証明し、疑いの余地はほとんどありません。奇妙な事にこの場合、私達は外国のコミュニティに大きな恩恵を感謝する必要があります。

土地・建物などは神戸と兵庫に居住する日本の商人の自発的な参加に依って提供されました。

施設をできるだけ広く利用したいという願望があり、管理全体を日本政府に引き渡しました。

すべての患者の受け入れと治療を最初に規定する。Dr. Vedderは医療の責任者であり、彼の指導のもと“神戸総合病院”は非常に有用な施設になる様、公正に運営しています。

私達は数日前に施設を訪問し、トラブルに対する十分な回答がありました。入室すると、親切に建物を案内しバグダー博士と彼の助手である森博士に礼儀正しく迎えられました。正面エントランスの左側にある部屋は、注目に値する最初の部屋であり、その反対側には素晴らしい風通しの良い調剤室があります。この階には和室（Japanese Class-room）と3病棟があり、30人の患者が宿泊できます。バスルームもあり、その他の病院の人達も使用できます。

2階に上ると素晴らしく訪問者を引き付けます。寒い天候では、これは回復期の人々にとっては素晴らしい運動の場所になります。この周りには病棟があり、1人部屋、2人部屋と大きな病室で構成されており、50人の宿泊施設があります。

ここは混雑する事なく建物の合計80人の患者を収容できます。

正面のベランダからは日本式の人工池や島のある美しい庭園を見渡せます。湾と海の素晴らしい眺めです。

設立の重要な特徴は慈善団体です。病棟、そしてここでは施設のレベルで慈善性が明らかです。

80人の患者に部屋が提供されます。キッチンと離れ家を含む施設全体、完璧です。すべて行き届いています。

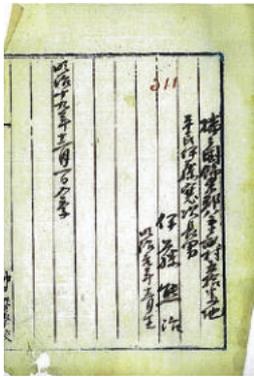
私達は“Wanted-Hospital”という記事を掲載した時、貴重な施設を作る為に地方の企業と慈善団体に恩恵を受けるべきだと考えませんでした。

その原則に、とても寛大な人は外国人がほとんど彼らに与えない信頼以上に日本人の間に存在する同情を示しています。



高士神戸新聞社会長 他

3. 学籍簿の入手（一名分（提示））



学籍簿

神田知二郎医学校長のご遺族からの提供による1～392の連続番号、学籍簿が神緑会館の完成時に隣の廣巖寺（楠寺）から石碑移転により養女の系列の菅家から提供された。平民、士族等の身分とともに学生の講義ノートで有名な池田宇之助氏は、多可郡出身だが、残念ながら学籍簿は無かった。

数十名単位で虫食いの為か保存されていなかった。長澤亘氏は、姫路出身で明治21年1月卒業だった。

明治21年の廃校に伴う学生の異動に関して、具体的内容が判明した。岡山県立医学校47名、京都府医学校9名で退学11名だった。これらの学生の場合、学籍簿の右半分のみが残っていた（311）。

ショウケース展示物の内容

1. 神戸大学文書史料室よりの借り出し資料

- 1) 明治15年から21年神戸医学校学籍簿（連番で300名程度）から借用、神田知二郎医学校長の養女菅さまのご遺族 菅 達男様提供 から
- 2) 池田宇之助神戸医学校講義筆記ノート 8冊中4冊
- 3) 長澤 亘先生 嗚呼、神田先生及び古希の写真集

2. 神戸大学図書館医学分館からの借り出し資料

- 1) 明治7年 治験録 ベリー医師
- 2) 外科通論 全20巻 内3冊

これらの資料は、鍵のかかる装置での展示が規則で決められている条件で借り出し許可を受けてます。ご

了解下さい。

なお、他の書物なども多くの方々のご協力で一般社団法人神緑会が保管するものです。長期の保存にご協力下さい。

一般社団法人神緑会

謝辞

神戸病院建設後150年の長い経過で記録がはっきりしない中、多くの方々に資料提供をいただきました。京都大学にあった4枚の写真が神戸病院と特定できたこと、更にその詳細位置が下山手8丁目と特定できたのは藤田英夫先生の尽力によるが奇跡に近い偶然・幸運もあった。現存する道標、斜面の辺りは民家が密集し、北の平地に近い部分は、病院移転後江馬内科と雅叙園ホテルを経て阪神・淡路大震災後に取り壊され、マンションになっている。

明治から大正、昭和における神戸病院について、又新（ゆうしん）新聞の記事などでかろうじて実態に迫ろうとしていたが、昭和5年の病院本館竣工までの間が漠然としていた。ごく最近、山本ゆかり建築デザイナーの手により、精力的に検索していただいた。建築家の目で見えていただいた点のほか、文献検索も的確で初代病院頭のベッダーの診断書や病院広告、神戸病院の内部の実態：The Hiogo Newsを入手できた。事実関係のほとんどは明らかになった事をご報告し、かつ、関係の皆様へ深く感謝します。神緑会内では、40・50周年記念事業で多くの新事実を掘り下げていただいた岡田安弘先生（昭和37年卒）や故住野公昭先生（昭和38年卒）に感謝します。

神戸大学医学部医学科創立75周年・神戸病院創立150周年記念 神緑会企画ゴルフコンペ開催しました

とき ≫ 令和1年9月8日(日) ところ ≫ 六甲国際ゴルフ倶楽部

ゴルフコンペ後の懇親会には参加者に加え、前会長の前田顧問と新会長の木戸会長が合流し挨拶をし、親しく和気藹々とした雰囲気の中で歓談し楽しい時間を過ごしました。最後は、前副会長で神戸神緑会会長の中野顧問の挨拶でしめくられました。



成績



1位 黒田 良平 (H1)

2位 高原 哲夫 (49)

3位 黒田 和司 (52)



川口 勝徳 (41)	松岡 謙二 (41)	横野 浩一 (47)	宮崎 隆吉 (47)	関 道雄 (48)
山崎 良定 (49)	高原 哲夫 (49)	南 正樹 (51)	藤原 卓夫 (51)	川原 康洋 (51)
中野 康治 (52)	石原 健造 (52)	黒田 和司 (52)	中野 謙二 (52)	和田 啓子 (52)
水野 秀隆 (54)	川田 哲己 (54)	石田 常之 (54)	山崎 浩 (55)	熊谷 仁人 (55)
藤井 正彦 (57)	藤井 明 (57)	谷 恵美子 (58)	黒田 浩光 (60)	味木 徹夫 (63)
黒田 良平 (H1)	劉 正夫 (H25)	中山慎太郎 (H28)	丹生 健一 (特別会員)	津田洋之介 (学生6年)
藤山 舞 (学生5年)	谷口 飛鳥 (学生4年)	畦倉 孝曉 (学生4年)	今田 健斗 (学生4年)	新野 花 (学生4年)
日下部仁美 (学生4年)				



ゴルフコンペの感想

この度は神緑会前会長の前田盛先生よりお誘いいただき、僭越ながら記念コンペに参加させていただきありがとうございました。ゴルフ部からは、部員7名OB2名が参加させていただきました。ゴルフコンペ自体はアウトイン合計9組36名の参加があり盛大に行われました。ゴルフ部を代表し、私から感想を述べます。

毎年サントリーレディスオープンが行われ、2015年には男子ゴルフの国内4大メジャー大会の一つである日本オープンも行われた名門コースである六甲国際ゴルフ倶楽部でプレーさせていただきました。当日は秋晴れの大変良い天気の中、気持ちよくプレーすることができ

医学部医学科4回生 谷口 飛鳥

ました。戦略性の高いコースで苦戦しましたが、ニアピン賞もとらせていただき、満足のいくゴルフができました。ご一緒に回らせていただいた神緑会の方々が大変上手く、これから先、そして、卒業してもゴルフを続けて上手くなっていきたくて思いました。ゴルフ部としてもこのようなコンペに招かれたのは初めてで、これからも交流を深めさせていただきたいです。最後にこのコンペを企画していただいた前田先生、現会長の木戸先生、大学から参加いただいた丹生教授、幹事でゴルフ場との交渉を主に行っていただいた顧問の中野先生、当日の幹事の味木先生、そして神緑会の皆様へ感謝申し上げます。



第108回 日本学士院賞受賞に寄せて —— 出合いに導かれて

清野 進

神緑会会員の先生方におかれましてはお元気にご活躍のことと存じます。

私は平成30年に第108回日本学士院賞受賞という栄誉を与えられました。6月25日の授賞式では天皇陛下と皇后陛下（現上皇陛下、上皇后陛下）への研究紹介に引き続き両陛下ご臨席のもとで塩野宏学士院長から賞状と賞牌を授与された後、午後は皇居にお茶会のお招きを受け、両陛下、皇太子殿下（現天皇陛下）、秋篠宮殿下、紀子同妃殿下とお食事をしながら親しくお話を頂いたことは一生忘れえぬよき思い出となりました。特に平成最後の学士院賞授賞式にご臨席の天皇、皇后両陛下に拝謁できたことは大変光栄なことでした。

私の受賞を祝って平成30年10月30日に神緑会、医学研究科、医学部付属病院のご支援により受賞記念講演会・祝賀会を開いていただきました。教員、職員の皆様のご厚情に心よりお礼を申し上げます。祝賀会では神緑会前理事長前田盛先生、そして武田廣学長、的崎尚医学研究科長、平田健一病院長より心のこもったお祝辞を賜り大変うれしく存じました。

このたびの学士院賞は主として私が米国から帰国して以降の千葉大学と神戸大学での研究「インスリン分泌を制御するシグナル伝達の分子機構に関する研究」が認められて与えられたものです。

思えば私の研究の原点は、神戸大学医学部5年時に当時新設された第3内科初代教授であった井村裕夫先生の臨床講義にあります。井村先生が私を内分泌・代謝学の世界への扉を開いてくださいました。以来40余年、私は膵ランゲルハンス島という直径が100マイクロメートルの世界で最も小さな島に向かって冒険航海を続けています。今日に至る私の航海は人との良き出合いに導かれたものでした。これまで出会ってくださった方々への感謝をこめて私の研究の旅についてお話をさせていただこうと思います。

私は1974年に医学部を卒業、1年間附属病院で研修後、井村先生が主宰される第3内科で内分泌・代謝学を始めました。井村先生はその後40年にわたり学問的な指導のみならず人生の節目、節目で助言、励ましを下さ

る大切な師です。田附興風会北野病院の当時の内分泌内科部長八幡三喜男先生と日本で初めて糖尿病専門の個人クリニックを開業された池田正毅先生には糖尿病の臨床の厳しくも愛に溢れる指導を受けました。米国では maturity-onset diabetes of the young (MODY) を発見された Stefan Fajans 教授（ミシガン大学）から患者指向の研究の重要性を、インスリン遺伝子やグルカゴン遺伝子のクローニングなどで気鋭の分子生物学者 Graeme Bell 教授（UCSF ならびにシカゴ大学）からは分子生物学を、プロインスリンの発見者である Donald Steiner 教授（シカゴ大学）からインスリンを始め膵ホルモンのタンパク質化学や分子進化の教えを受けたことが今日の私の physician-scientist としての礎となっています。井村先生が京都大学医学部第2内科の教授として母校にお戻りになられたのをきっかけに私は京都大学に場を移し、1978年から1982年まで第2内科医員として臨床医を務めながら膵ホルモンの分泌調節について研究を行いました。この研究がその後の40年間膵ランゲルハンス島への航海の出発点になりました。1982年学位取得後、ミシガン大学を皮切りに、カリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）、再びミシガン大学、そしてシカゴ大学と1991年末に千葉大学に赴任するまで約9年余り、米国で研究生活を送りました。シカゴ大学では霊長類のインスリン遺伝子とヒトインスリン遺伝子異常、ヒトインスリン受容体遺伝子の構造決定とその異常による糖尿病の解明、種々のヒトグルコーストランスポーターのクローニングなど日課のようにひたすら遺伝子クローニングを続けました。1990年頃から本来興味があったインスリン分泌機構を分子レベルで解明しようと考え、β細胞の研究に分子生物学を導入しました。

1980年代は欧米を中心に「糖尿病はインスリン作用不全」の疾患であると見なされ、研究の潮流はインスリン「分泌」より「作用」でした。インスリン分泌を研究する研究者は世界でも数少なく、まして分子生物学的手法を用いて研究する研究室はほぼ皆無で、インスリン分泌研究にとってまさに暗黒の時代でした。

1991年に縁あって千葉大学医学部に教授のポジションを与えられました。この時に熱心にお誘いくだ



さったのが当時高次機能制御研究センター長の谷口克教授（前理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター長）です。千葉大学ではインスリン分泌のシグナル伝達を分子レベルで解明するという、それまで殆ど研究されていなかったテーマで研究を開始しました。そして2003年に母校の神戸大学に28年ぶりに戻ってからさらにその研究を発展することができました。このたびの受賞は両大学で研究した1) グルコースによるインスリン分泌の分子機構の解明：K_{ATP}チャネルの同定による代謝仮説の実証、2) cAMPによるインスリン分泌の分子機構の解明：Epac 2を介する経路の発見、3) スルホニル尿素（SU）薬によるインスリン分泌の分子機構の解明：その多彩な作用の発見、4) インスリン分泌を制御する新たな代謝シグナルの解明：メタボロミクスによるアプローチが評価されました（学士院ホームページ <https://www.japan-acad.go.jp/japanese/activities/jyusho/>）。1921年 Banting と Best によるインスリンの発見はそれまで不治の病であった糖尿病患者の命を救いましたが、どのような仕組みでβ細胞からインスリンが分泌されるかの詳細は依然不明のままでした。私たちのグループがインスリン分泌の最も基本となるグルコースやcAMPによるインスリン分泌のシグナル伝達機構の基本を分子レベルで解明したことは糖尿病研究の発展に貢献し、神戸大学に少しは報いることができたのではないかと思います。

私のランゲルハンス島への航海は決して順風満帆ではありませんでした。それでも素晴らしい人々に出会い、それらの人々が羅針盤となってくださり、私は助けられ、研究という航海を存分にエンジョイしています。このたびの受賞は敬愛する恩師、同僚、スタッフ、学生そしてご支援下さる様々な分野の人々との出会いによってもたらされたことです。2013年4月からは企業のご厚志により、寄附講座という形で研究を続けることができます。

これからは私自身の研究だけでなく、将来を担う研究者を育てることでいただいた恩に報い、また神戸大学、医学研究科に少しでも貢献したいと願っています。

稿を終えるにあたり、神緑会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

Profile

清野 進 略歴

- 1974年3月 神戸大学医学部卒業
- 1974年7月 神戸大学医学部附属病院内科研修医
- 1975年7月 兵庫県立尼崎病院内科医員
- 1976年4月 田附興風会北野病院内科医員
- 1978年7月 京都大学医学部附属病院
第2内科医員(1982年3月医学博士)
- 1982年7月 米国ミシガン大学医学部
ポストドクトラルスカラー
- 1984年8月 米国カリフォルニア大学
サンフランシスコ校客員研究員
- 1985年7月 米国シカゴ大学生化学・分子生物学部
リサーチアソシエート
- 1986年8月 ハワードヒューズ医学研究所
アソシエート
- 1988年10月 米国シカゴ大学医学部
アシスタントプロフェッサー
- 1991年4月 米国シカゴ大学医学部アソシエート
プロフェッサー（テニュア）
- 1991年9月 千葉大学医学部教授
- 2002年7月 京都大学大学院医学研究科教授
（客員・併任）（2007年7月まで）
- 2003年4月 神戸大学大学院医学系研究科教授
- 2006年4月 神戸大学評議員（2009年3月まで）
- 2013年4月 神戸大学名誉教授
- 2013年4月 神戸大学大学院医学研究科特命教授
（現在に至る）

主な受賞

英国内分泌学会 Asia & Oceania Medal(現 International Medal)・日本糖尿病学会ハーゲドーン賞・持田記念学術賞・内藤記念科学振興賞・米国シカゴ大学 Donald F. Steiner賞・欧州糖尿病学会 Albert Renold賞・ベルツ賞一等賞・鈴木万平糖尿病財団 Manpei Suzuki International Prize for Diabetes Research・米国シティオブホープ Arthur Riggs賞・紫綬褒章（2011年11月）・日本学士院賞（2018年6月）



神戸大学ホームカミングデイプログラム

Homecoming day

医学部医学科

【受付】2019年10月26日(土) 13:45～14:15

(医学部会館3階シスメックスホール入口)

◆開会の挨拶 (医学部長)

14:15～14:25 (シスメックスホール)

◆神緑会会長挨拶

14:25～14:35 (シスメックスホール)

◆第6回神緑会 YIA 受賞講演

14:35～15:15 (シスメックスホール)

第6回最優秀賞受賞者

吉田 尚史 氏 (循環器内科) 重岡 学 助教 (病理学分野)

◆特別講演

15:15～15:50 (シスメックスホール)

「死因究明等推進基本法の成立」

警察庁科学警察研究所長 福永 龍繁 氏 (本部式典講演者)

◆閉会の挨拶 (医学科長)

15:50～15:55 (シスメックスホール)

◆記念撮影

15:55～16:00 (シスメックスホール)

◆第7回神緑会ヤングインベスティゲーターアワード (YIA) 発表会

16:10～17:00 (神緑会館)

◆懇親会

17:00～18:30 (神緑会館多目的ホール)

医学部長挨拶、神緑会会長挨拶、神緑会混声合唱団、神緑会YIA表彰式

《同窓会神緑会企画》

◆神緑会展示

・歴史展示 (7) 県立医大・神戸大学医学部 ・美術展示 (3)



第7回 神緑会ヤングインベスティゲーターアワード発表会

順位表

最優秀賞

千原 典夫	助教	脳神経内科学	T細胞における共抑制性受容体遺伝子群とその制御機構の解明
-------	----	--------	------------------------------

優秀賞

Mukhamad Sunard	大学院生	神経分化・再生分野	A point mutation in the Ret gene, RET(S811F), causes Hirschsprung's disease and kidney agenesis in a dominant-negative fashion
羽間 大祐	大学院生 非常勤医師	シグナル統合学	膜型分子 SIRP α を標的とする新たな免疫チェックポイント阻害剤の開発
松尾 秀俊	医員	放射線診断・IVR科	MRI画像とDeep learningを用いた耳下腺腫瘍の良悪性判別の試み
関 恒慶	大学院生 非常勤医師	脳神経内科	GAL3BPはAPPプロセッシングを調整してA β 産生を抑制する

疫学分野 准教授 篠原 正和 (平成10年卒)

神緑会 Young Investigator Award (YIA) は、若手研究者が分野を超え、お互いにその研究活動を率直に評価・交流できる研究発表の場を設けるために開催されています。さらに一般社団法人「神緑会」の多大なるご援助をうけて、優秀な研究に対しての表彰を行ってきました。また最優秀賞に選ばれた研究者には、次年度の医学研究科ホームカミングデーにて口頭発表をして頂くことで、神緑会の諸先生方と“顔の見える”コミュニケーションを行っています。

本年度の神緑会 YIA には、22 演題のポスター発表応募がありました。13 時より5名の教員（神緑会 YIA 実

行委員）による特別審査が行われました。1演題あたりの持ち時間は10分間ですが、最優秀賞には50万円の賞金が出ることもあり、時間いっぱい真剣勝負です。様々な専門性をバックグラウンドに持つ研究者が集まる中、どのように分かりやすく自分の研究内容をアピールするかプレゼンテーション能力が問われます。また審査員側も、どのような質疑応答で研究内容のポイントに斬り込むか、集中力と発想が問われ、本年度も大変白熱する特別審査となりました。また16時から、第2部となる一般審査が行われました。こちらでは来賓の先生方、教員、大学院生、さらに学部学生が審査員となるため、

さらにポイントを絞ったショートトーク形式での発表が求められます。

審査の結果、別表の通り最優秀賞に千原典夫先生、優秀賞にMukhamad Sunard先生、羽間大祐先生、松尾秀俊先生、関恒慶先生が選ばれました。おめでとうございます。参加者皆様の、今後の研究活動がさらに発展することを祈念しております。末筆になりましたが、今後とも神緑会からのご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。





合唱

神緑会混声合唱団の結成から1年を経て

兵庫県立がんセンター病理診断科 **梶本 和義** (平成6年卒)
 兵滋賀医科大学臨床教育講座 **伊藤 俊之** (平成3年卒)

神緑会混声合唱団は、神緑会前会長の前田盛先生をはじめ多くの先生方・事務方のご支援により、昨年に結成された親睦団体で、この度、おかげ様で結成1年を迎えることができました。この場をお借りして、関係の皆様方のご高配に厚く御礼を申し上げます。

この1年の活動を振り返ってみますと、当局のご尽力により実にたくさんのお出演の機会を頂戴することができました。いずれも短時間での出演ではありましたが、昨年と今年のホームカミングデーの懇親会、今年6月の神緑会総会の懇親会、同年9月の医学部75周年・神戸病

院150周年記念祝賀会の4回です。曲は、1961年大倉山祭冊子の刊頭で発表された「あけゆく大空六甲に」や、医学部50周年記念事業の学歌応募作品(審査中)など、同門の先生の作品を中心に演奏し、他に、医学部75周年・神戸病院150周年記念祝賀会では、「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲を、神戸大学医学部クラシック音楽愛好会の方々と共演することができました。改めて関係の皆様深く感謝を申し上げますとともに、今後とも変わらぬご声援、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



最後に団員募集をさせて頂きたく存じます。合唱団は神戸医大時代からの歴史を持ち、「親睦」を団是とする団体で、現在の登録団員は約20人（S38年卒～医学部1回生；女性8人）、学生を含め様々な立場の方々よ

り構成され（過半は合唱未経験者）、月1回の練習を（日曜午後3時～5時）、本学の第二講堂（もしくは神緑会館）で励んでおります。団員一同、新しい仲間をお待ちいたしております！（問い合わせ先：神緑会事務局）。



第3回神緑会美術展報告

ホームカミングデーに合わせて今年も附属病院廊下にて美術展を開催いたしました。

今回は河津祐則先生が初めて出展してくださいました。先生の作品が入れられている箱を開けてビックリ、いずれも重厚な絵具使いの素晴らしい作品を拝見し感動いたしました。

「少女」憂い顔の金髪の少女、モデルはどなたなのでしょう？「愛犬と」のモデルさんとおなじ方なのでしょう？「ツバキ」も小品ながら見入ってしまいました。これからも続けて出品して頂きますようお願いいたします。

吉岡先生の「鞍馬の火祭り」は火をモチーフにした珍しい構図の作品で、お祭りの感動が伝わってきます。

川田哲己先生の「アレッチ氷河」はスイスアルプス最大の氷河で、その雄大さが良く表現されており。そこからマッターホルンが見えたのでしょうか。おまけにブロッケン現象まで起こったとは羨ましいかぎりです。

川口恵子先生の「イングリッシュガーデン」は、パソコンで描かれたそうです。YouTubeで早速調べてみますとワードやエクセルでも絵が描けるのですね。第1回の展覧会でも斬新な作品で感心いたしました。これからも出品して、いろいろ教えていただきたいと思ひます。

宮地先生の「晩冬」「反映」の水面に映る景色の見事

藤谷 哲造（昭和37年卒）

な表現に、いつもながら感服いたします。静物「花」も背面を含め色のバランスは完璧ですね。

藤谷の「闘龍灘」は加古川の上流にあり、奇岩の間を流れる水の様子が龍の躍動に似ていることからその名がついたようで、アユが良く取れることでも有名です。「渡し場通り」は尾道商工会議所横の渡船棧橋前の小さな公園から千光寺を眺めた景色です。

絵を趣味にされている先生は大勢いらっしゃると思います。どうか次回には出品していただきますことをお願いいたします。





1



2



4



5



6



7

出展者

氏名	卒業年	出展作品掲載番号・題名
藤谷 哲造	(昭和 37 年卒)	1 「尾道：渡し場通り」 2 「鬪龍灘」 「曾木の滝」 (表紙絵)
河津 祐則	(昭和 38 年卒)	4 「ツバキ」 5 「少女」 6 「愛犬と」
吉岡 正子	(昭和 47 年卒)	7 「鞍馬の火祭り」



8



9



10



11



12



13

出展者

氏名	卒業年	出展作品掲載番号・題名
川口 恵子	(昭和 48 年卒)	8 「イングリッシュガーデン」
川田 哲己	(昭和 54 年卒)	9 「アレッチ氷河」 10 「マッターホルンとブロッケン現象」
宮地 千尋	(昭和 54 年卒)	11 「晩冬」 12 「花」 13 「反映」

第
71
回

西日本医科学学生総合体育大会(西医体)成績表

令和元年8月5日から20日の日程で第71回の西医体が開催されました。今年の主催は関西医科大学でした。総合成績は、1位 愛媛大学、2位 徳島大学、3位 名古屋大学となり、神戸大学は37位でした。神戸大学の各競技別の成績を次ページに示します。

優秀団体紹介

女子ソフトテニス部 女子団体戦優勝

医学部医学科4回生 小田木 緋里



では、失敗し、西医体優勝という目標を達成するためには自分達は何が足りていないのか、チーム内で話し合い、修正し、一つ一つ積み重ねていく日々。そして、夏に近づくにつれて、一人一人がどんどん頼もしくなり、個々の役割を発揮し、チーム内でお互いに支え合い、高め合う雰囲気となり、一人一人の成長も、チームとしての成長も間近で感じることができ、学生時代の中でも忘れることのできない最高の時間となりました。

1年間、様々なことがあり苦しいこともありましたが、それ以上に得たものがありました。一人の力は小さくても、チームで一つの

まず初めに昨年度は軟式テニス部が部活動停止、西医体棄権となり多くの方々にご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げます。

そして、今シーズン自分たちの部活の形を一から見直し、これから先、チームとしてどのような方向へ進んでいくべきなのかじっくり考え、新たに色々な取り組みを行い、チームとして再出発をしました。そして、2年ぶりによく戻って来れた西医体で優勝、全医体でも優勝することができました。

これからの部活を盛り立ててくれるであろう下回生にとって、原動力となるような夏にしたい、全部員にとって成長できたと振り返れる1年間にしたい、1年前の夏無念にも最後の西医体出場が叶わなかった卒業生に、チームが次へと途切れることなく前進したんだと報告したい、という思いが強く全力で駆け抜けた1年間でした。

一人一人小さなまとまりの信頼関係が、チーム全体への信頼関係につながり、最終的にチーム一丸となれるのではないかと考え、色々なことに挑戦し

目標を共有できれば大きな力となることを学びました。仲間と時間を共に過ごし成長できる環境があること、そして関わってくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、チームとしても個人としても成長していけるよう、まずは何事にも挑戦することを忘れず精進して参ります。1年間本当にありがとうございました。



成績表

競技名	神戸大学成績	競技名	神戸大学成績	競技名	神戸大学成績
男子テニス	1回戦	女子バレーボール	第2位	陸上競技女子	予選敗退
女子テニス	ベスト 16	男子バドミントン	ベスト 16	ヨット	第9位
男子ソフトテニス	ベスト 16	女子バドミントン	1回戦	合気道	最優秀賞
女子ソフトテニス	優勝	弓道男子	54中	剣道男子	予選敗退
サッカー	1回戦	弓道女子	11中	剣道女子	予選敗退
準硬式野球	1回戦	柔道	予選リーグ敗退	ハンドボール	予選敗退
男子バスケットボール	1回戦	卓球男子	1回戦	ラグビー	ベスト 16
女子バスケットボール	ベスト 16	卓球女子	1回戦	男子ゴルフ	30位
男子バレーボール	2回戦	陸上競技男子	予選敗退	女子ゴルフ	19位

女子バレーボール部 準優勝

医学部医学科4回生 日野 華子

女子バレーボール部は現役部員 20 名、マネージャー 2 名で今年の西医体に臨みました。この夏はずっとチームを支えてくださっていた 4 人の先輩方の引退の年ということもあり、幹部が始まった当初から西医体優勝と新チームへの基盤を築くことを目標に掲げて 1 年間練習に励んでまいりました。キャプテンとして、レギュラーに対して、自分のことは棚に上げて、私にはできないことを要求し、厳しいこともたくさん言いました。そんな中、文句も言わず、最後まで付いてきてくれたチームのメンバーに感謝しかありません。

3月の医歯薬大会、5月の中四国大会など、西医体前の大事な大会では健闘するものの、あと一步のところと思うような結果が出ず、焦りともどかしさが募っていましたが、短い練習時間や練習試合の中で毎回少しずつですが、レベルアップをして夏を迎えました。1日目、2日目と、コート内の選手はもちろん、コート外からも戦



略を立てたり、応援したりと、本当にチーム一丸となって闘いました。そうして迎えました決勝では西医体を3連覇おります、三重大さんと対戦しました。大変白熱した試合となり、1セット目は大逆転してなんとか取りましたが、2、3セット目は三重大大学の強さに敵いませんでした。終わった瞬間、嬉しさや悔しさ、このチームとしては終わってしまう寂しさなど様々なものが込み上げてきました。目標としていました優勝には一步届きませんでした。準優勝という結果が残せて本当に嬉しく思います。練習時間があまり取れず、体育館も狭い中、練習に励み、コート外コート内関係なく勝つために力を貸してくれた部員全員、本当に頼もしく、1年間戦い抜いたこのチームを誇りに思います。

最後に、日々練習できるのも、このような結果が残せたのも先輩方が築き上げた基盤と、たくさんの関係者の皆様のご支援ご声援のおかげでございませぬ。感謝申し上げます。新たなチームでもさらに精進して参りますので、今後とも変わらぬご支援よろしくお願い致します。



CiRA便り

京都大学iPS細胞研究所 基金事務局 砂留沙季子

神緑会の皆様、平素はiPS細胞研究所（CiRA）に継続的なご支援を賜り、誠にありがとうございます。
今号では、最新の研究成果等を紹介いたします。

細胞老化による発がん抑制作用を 個体レベルで解明

～細胞老化の仕組みを利用した
新たながん治療法開発に向けて～

岐阜大学医学部整形外科（研究当時：京都大学iPS細胞研究所）の河村真吾助教、東京大学医科学研究所の伊藤謙治特任研究員、山田泰広教授らの研究グループは、明細胞肉腫（Clear Cell Sarcoma：CCS）のマウスモデルに形成された腫瘍の細胞株からiPS細胞を樹立し、このiPS細胞をマウスの胚盤胞に移植することで、CCSと同じ遺伝子変異を持つキメラマウスを作製しました。これまで、発がんには遺伝子変異が重要であることがわかっていましたが、遺伝子変異以外の他の要因の重要性は十分にわかっていませんでした。本研究では、作製したキメラマウスの組織を詳細に調べることで、遺伝子変異が存在しても多くの組織では腫瘍は形成されないことを示しました。また、このキメラマウスでの腫瘍抑制には細胞老化が関与していることを明らかにしました。さらに、この分子基盤を明らかにすることで、がん細胞に細胞老化を誘導し、がん細胞の増殖を抑制できることを示しました。本研究成果は、発がんには遺伝子変異だけでなく、細胞・組織ごとに異なるエピゲノムも重要であることを個体レベルで明らかにするとともに、がん細胞のエピゲノムを標的として人為的に細胞老化を誘導することで発がんを抑制するという、新たながん治療法開発の可能性を提示しました。

ヒトiPS細胞を用いて 神経筋疾患の病態生理を模倣

林壮宇研究員（CiRA臨床応用研究部門）、齋藤潤准教授（CiRA臨床応用研究部門）らの研究グループは、ヒトiPS幹細胞由来の機能的かつ成熟した神経筋接合部構造の構築に世界で初めて成功し、これを使って脊髄性筋萎縮症の病態モデルを構築しました。この研究は、京都府立医科大学、台湾Academia Sinica、ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社及びCiRA櫻井英俊研究室との共同研究の成果です。CiRA櫻井英俊研究室は以前にヒト多能性幹細胞にMYOD1遺伝子を強制発現させて骨格筋細胞を誘導する分化系を開発しています。研究グループはこの分化系を改変し、細胞培養の条件を神経細胞・筋細胞の双方に適合させることにより、ヒトNMJを簡便に誘導することに成功しました。この分化系では、従来のように、複数の細胞を別々に用意して混ぜ合わせたり、細胞を選別したりすることなく、一つの培養皿の上で培養を続けるだけでヒトNMJを作ることが出来ます。ヒトNMJは分化誘導開始20日ごろから出現し始め、当初は胎児型のNMJですが、次第に成熟し成人型へと切り替わり、100日以上維持することが出来ます。完成したNMJは、ヒトの生体内のものと類似した形態を示しました。また、電子顕微鏡で詳細に形態を観察すると、生体内のNMJと同様に、神経細胞の末端と筋肉細胞の結合部をSchwann細胞という細胞が覆っており、NMJ周辺にミトコンドリアが集まっ

ている様子が観察できました。生体内の構造に類似したNMJを試験管内で構築することが出来たのは、世界初のことです。近年、脊髄性筋萎縮症や筋萎縮性側索硬化症などの神経筋疾患においてNMJ病変が早期に現れることが注目されており、本システムはこれらの疾患の病態解明や治療法開発に有用と考えられます。また、ヒトNMJを培養皿の上で構築することにより、ヒトNMJの形成過程の解明などの生物学的な研究にも貢献できると期待されます。研究成果は2019年9月19日に米国科学誌「JCI insight」にオンライン公開されました。

マラソン通信

10月27日（日）に開催された金沢マラソン2019に山中伸弥教授が初出場しました。今回はiPS細胞研究基金のTシャツを着ての出走でした。大会当日は雨が降る中でのマラソンとなりましたが、自己ベストを更新する3時間24分19秒で無事に完走しました。



12月1日（日）は大会アンバサダーを務めます第9回大阪マラソンに出場予定です。

iPS 細胞研究基金についてのお問い合わせ先

■ iPS 細胞研究所 iPS 細胞研究基金事務局

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53

TEL : 075-366-7152 FAX : 075-366-7034

メール : ips-kikin@cira.kyoto-u.ac.jp

資料請求専用フリーダイヤル : 0120-80-8748 (平日 8 時半～ 17 時)

■ 京都大学基金ウェブサイト

「京都大学基金」で検索してください。URL は以下の通りです。

<http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>



研修医日記 プロローグ

総合臨床教育センター特定助教／糖尿病内分泌内科 **木村 真希** (平成15年卒)

今号より「研修医日記」と称して、大学で頑張る研修医の生の声を取り上げていただくことになりました。同門の先生方に、医師としての第一歩を踏み出したフレッシュな神緑会会員の研修生活を知っていただき、医師人生において誰も特別な思い出のある研修医時代を束の間思い出していただきつつ、より一層のご支援・ご鞭撻を頂戴できれば幸いです。

と、ご挨拶しておきながら、研修医でもなく、若手でもない私がこの頁を担当しておりますのは、日々病院のあちこちを東奔西走しながら頑張っている研修医を間近で見ていると、原稿依頼の声掛けを躊躇しているうちに時間だけが過ぎてしまいました。今回は、私から初期臨床研修医が所属している総合臨床教育センターのご紹介を前座とさせていただきたく存じます。

神戸大学医学部附属病院総合臨床教育センター（以下教育センター、河野誠司教育センター長）は、神戸大学医学部附属病院における卒前卒後臨床教育を統括しており、病院をあげて医師としてのキャリアのスタートをサポートしています。私は、初期臨床研修の臨床教育プログラムの企画運営や研修医サポートを担当しています。

近年の状況としては、令和2年度採用予定の初期臨

床研修医募集定員71名に対して、200名を超える応募があり、一般コース・関係病院とのたすきがけコース・小児科医育成コースでフルマッチし、マッチング充足率（97.2%）・マッチ者数（69名）は42国立大学病院中でそれぞれ第2位・第4位でした。日頃のご支援に感謝申し上げます。

現在、教育センターには80名の初期研修医が在籍しています。出身や希望専攻科、それぞれの価値観などは様々である一方で、各々の理想像を追求すべく努力している点は共通しています。当院では各診療科のご協力によって、豊富な研修医向けセミナー、マンツーマン方式の外科ハンズオンセミナー、大リーガー医プロジェクトなどの自己研鑽の場だけでなく、メンター制度も整え研修医個々に必要なサポートが提供できる体制をとっています。神戸の土地柄、利便性を生かして研修医同士の院外交流も盛んに行われています。休みや勤務後の時間帯には楽しそうな会話が研修医室から聞こえてきます。

2020年度より卒後臨床研修制度の内容が一新されます。関連病院の先生方にご協力を頂きながら新たな研修プログラムを策定しました。外来研修の必修化や形式的なフィードバックなどが加わります。今後教育

センターにて研修中または研修を終えた若手医師が、様々な場面で会員の先生方にお世話になりますので、今後ともどうぞよろしくご指導のほどお願いいたします。

次回から、当センター所属の初期臨床研修医がリレー方式で担当します。大学研修の実際やたすきがけ病院での研修、休みの日の過ごし方や趣味特技、最近研修医の間で流行っていること等々、彼女たちが見て感じていることを自由に綴ってほしいと思います。

総合臨床教育センター教職員のご紹介



(改定) 令和2(2020)年度 一般社団法人神緑会助成事業募集について

一般社団法人神緑会は定款第2章(目的及び事業)第7条第3号「大学等教育研究機関における医学に関する教育、研究活動及び学術交流に対する援助」に基づき、下記の要領にて令和2(2020)年度助成事業を会員から募集いたしますので奮ってご応募下さい。 ※学術誌第35巻に掲載された内容から変更しています。

記

1. 応募資格

一般社団法人神緑会会員であること、応募前年度までに会費を完納している会員。

2. 募集対象

- (1) 医学の教育・研究及び学術交流の振興に寄与するとともに若手研究者の育成に資する事業で本助成に適合するもの。ただし、文部科研等 他の助成研究に応募できる者は、出来る限りそちらへの応募が望ましい。
- (2) 海外における学会発表で本助成に適合するもの3件以内。ただし、(1)、(2)とも原則として若手研究者の応募を奨励する。また、原則として2年連続の助成はしない。
- (3) 小規模な学術講演会等の開催で本助成に適合するもの。

3. 助成期間

原則として当該年度内とする。

4. 助成金

助成金の総額は当該年度予算の範囲内とし、応募1件につき2.(1)は50万円を、(2)は10万円を、(3)は25万円を限度とする。

5. 助成を受けた者は、次の義務が課せられる。

助成の成果等の報告書を一般社団法人神緑会学術誌に掲載すること。

6. 応募方法

応募者は、助成金申請書記入手引きに従い所定の申請用紙に必要事項を記入し提出すること。(申請用紙は、神緑会ホームページまたは、事務局にて入手してください。)

7. 応募期間

令和2年3月31日までとする。

8. 選考方法

本会学術委員会で選考し、同理事会で決定する。

PORTOPIA HOTEL



Hospitality & MICE

国際都市・神戸のリーディングホテルとして
これからも信頼のサービスをお届けしてまいります。

- ポートピアホール1,702席 スクール形式610席
(6ヵ国語同時通訳設備 コンサートホール対応)
- 宴会場36室 屋外・屋内チャペル、神式場
- 客室746室 ■高速LAN全館完備
- ゲストサービスサロン ■エグゼクティブフロア「オーバルクラブ」
- レストラン&バー など13店 ■室内・屋外プール テニスコート ジム サウナ
- エステティックサロン ショッピングアーケード ■駐車場450台収容
- 「三宮」「新神戸」とホテルを結ぶシャトルバス(無料)20分に1本運行中

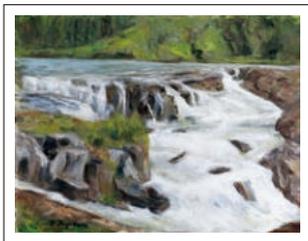
ご予約・お問い合わせは…

Tel.078-302-1111(代表)

神戸コンベンションコンソーシアム/構成団体



〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10番地1
ホームページ <https://www.portopia.co.jp/>



表紙絵「曾木の滝」 藤谷 哲造(昭和37年卒)

この滝は鹿児島県伊佐市大口盆地の中央にあり、幅210m、高さ12mで「東洋のナイアガラ」とも呼ばれている。千畳岩を流れ落ちる水流は豪快です。

編集後記

今回より新たな広報委員会の元で、神緑会ニュースレターを発刊することとなりました。これまでのニュースレターを踏襲しつつ、新たなコーナーも設けていき、会員の先生方にご興味を持ってもらえるようにリニューアルしていくつもりです。今回は、新たな編集方針のもと、神緑会会員全員に送付させていただきます。また、これまで学生会員には教室等で配布していましたが、今回は学生会員のご父兄宛に送らせていただきます。学生会員のご父兄の皆様も一緒にご覧になっていただけたらと思います。

今号では、神戸大学医学部医学科創立75周年・神戸病院創立150周年の記念事業について巻頭で特集

いたしました。大盛況に終わった記念式典の雰囲気をお伝えできれば幸いです。また、今号では、昭和37年卒の藤谷先生の絵画を表紙にさせていただきました。今後も絵画や写真など神緑会員の作品を取り上げていきたいと思っております。さらに、今回から研修医日誌を始めました。今後は、クラブ紹介や開業医(勤務医)リレー随筆などの企画も考えております。ニュースレターは同窓会誌として、年一回発行の学術誌はより学術的な雑誌にしていきたいと考えております。会員の先生方からのご意見やアイデアがありましたら、神緑会事務局までお寄せください。
(広報委員会)

神緑会
ニュースレター
第11巻第3号

発行

一般社団法人神緑会 会長 木戸 良明
〒650-0017
神戸市中央区楠町7丁目5-1 神戸大学医学部内
TEL 078-361-0616 FAX 078-361-0617
sinryoku@med.kobe-u.ac.jp

印刷

小野高速印刷株式会社
〒670-0933 姫路市平野町62番地
TEL 079-281-0008 FAX 079-223-3523
URL:<https://www.ohp.co.jp/>
<http://www.dousou.info/>

会員名簿2019(令和元)年度版についてのご案内

この度、2年に一度の会員名簿を発行するにあたり印刷会社及びサイズ等を変更し、内容を充実させるべく発行日を2020年3月中旬に遅らせることとしました。

まず、会員情報につきましては、会員全員に送付し、最新の情報を反映させます。同封の総会出欠回答ハガキ裏面に現状の登録情報を印刷しました。会員の皆様方におかれましては今一度ご自身の登録情報をご確認ください。

変更は2020年1月31日まで受け付けております。なお、専攻と勤務先については、積極的にご登録をお願いいたします。サイズにつきましても、見やすいサイズ(B5→A4)に変更しご提供することとしました。



名簿購入のお願い

会員名簿は会員の最新情報が掲載されております。会員相互の親睦、連携を密にする資料としてお役立てください。

神戸大学医学部卒業生名簿及び神緑会会員名簿の発行及び領布(定款第7条第5項)は神緑会の力を注ぐ事業です。別添えの振込用紙にてお振込みいただくことにより、3月中旬ごろ送付します。ぜひご購入ください。1冊 10,000円(送料込)です。

名簿に関するお問い合わせにつきましては、神緑会事務局もしくは、印刷編集を行っております下記小野高速印刷(株)までお願いします。

小野高速印刷(株)同窓会支援事業部

総会・支部会はじめ、同期会、各部OB会等開催をお手伝いします。下記問い合わせ先へ!!

TEL 0120-66-7754 FAX 0120-81-2299

ホームページアドレス <http://www.dousou.info/>

メールアドレス meibo@dousou.info

神戸大学医学部の皆様へ

“安心なお見合い”をするなら
イーガーマリッジへ

親婚活

全国11万人以上の公的証明書提出済の一般会社員・公務員・医師・歯科医師・弁護士・公認会計士・エグゼクティブ・高学歴・高収入の方など、幅広い方が在籍しております。お子様の幸せ、ご家族皆様の幸せの為に、理想の結婚をサポートさせて頂きます。



会員数**11万人**なので、素敵な方にきっと出逢えます!

《婚活方法には…》

♥エグゼクティブパーティー ♥プロフィールでのご紹介 ♥お釣書での個人紹介など

さまざまな幅広い婚活方法をご用意しておりますので、お子様に合った方法で婚活ができます。

写真非公開で活動も可能 / 一般女性の方もご入会可能 / 有資格者のご紹介も可能



イーガーマリッジでは、個人情報の保護を徹底! 安心して婚活いただけます。

経済産業大臣認定個人情報保護団体の結婚相談業サポート協会会員『MCSA(マクサ)』に加盟し、個人情報の保護の強化に努めておりますので安心して婚活ができます。

毎月限定15名様
**90日間 結婚相談所
無料体験プラン
実施中!**

《90日間 結婚相談所無料体験プランの流れ》

- ① まずは下記フリーダイヤルか弊社ホームページにてお問い合わせください。
- ② 一度ご来社いただき、プロフィール用紙の作成を致します。
- ③ 店内スタッフによる撮影・画像修正が含まれております。
- ④ 全国約11万人が登録する中から、お子様に合った方をお探します。
- ⑤ 実際にどのような方からお見合いのお申し込みをいただいているかを確認しながら慎重に選びます。
- ⑥ 素敵な方がいましたら、正会員へご登録いただきますと弊社よりお見合い券を3枚進呈致します。
- ⑦ お見合いパーティーが1回無料になりますので、たくさんの方と出逢って理想の方と一緒に見つけましょう。



まずは下記フリーダイヤルまたは公式ホームページよりお気軽にお問合せください

イーガーマリッジで一生ものの結婚を

株式会社イーガ・イーガーマリッジ 0120-223-468

〒560-0023 豊中市岡上の町3-2-3ナニワビル2F tel.06-6852-1186

営業時間/11時~19時 定休日/毎水曜日

公式ホームページ

イーガーマリッジ

検索

http://www.kekkon-em.com

